

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成17年2月10日(2005.2.10)

【公表番号】特表2000-514107(P2000-514107A)

【公表日】平成12年10月24日(2000.10.24)

【出願番号】特願平10-503236

【国際特許分類第7版】

C 0 8 G 8/12

C 0 8 G 8/24

C 0 8 G 59/40

C 0 9 D 161/18

【F I】

C 0 8 G 8/12

C 0 8 G 8/24

C 0 8 G 59/40

C 0 9 D 161/18

【手続補正書】

【提出日】平成16年6月17日(2004.6.17)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】補正の内容のとおり

【補正方法】変更

【補正の内容】

## 手 続 補 正 書

平成16年6月17日

特許庁長官 今井康夫 殿

## 1. 事件の表示

平成10年特許願第503236号

## 2. 補正をする者

名称 ミネソタマイニング アンド マニュファクチャリング  
カンパニー

## 3. 代理人

住所 〒105-8423 東京都港区虎ノ門三丁目5番1号 虎ノ門37森ビル  
青和特許法律事務所 電話 03-5470-1900

氏名 弁理士(7751)石田 敏

## 4. 補正対象書類名

明細書及び請求の範囲

## 5. 補正対象項目名

明細書及び請求の範囲

## 6. 補正の内容

a) i) 明細書第4頁第22行目の後に『W094/14867はフェノール樹脂などの求核性種、求電子性種及びエポキシ樹脂からなる群より選ばれるいずれか2つの共反応体との組み合せで1, 3-フェニレンビス-2-オキサゾリンを含む粉末被覆剤に関する。』なる記載を追加します。

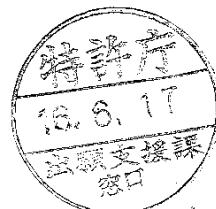
ii) 明細書第32頁第19行目から最終行に「本発明の…いうまでもない。」  
とあるのを削除します。

b) 請求の範囲を別紙のとおり補正します。

## 7. 添付書類の目録

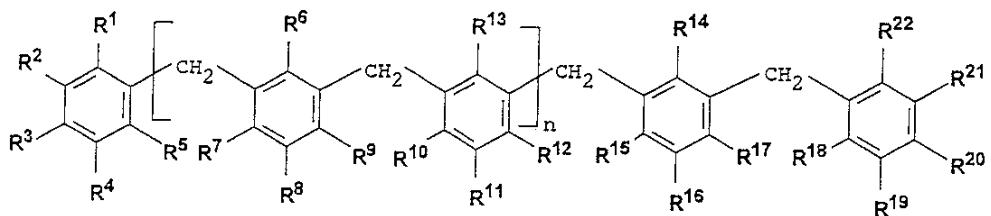
請求の範囲

1通



## 請求の範囲

1. 以下の式：



ここで、

$R^1$ 、 $R^2$ 、 $R^3$ 、 $R^4$ 、および $R^5$ はそれぞれ独立して $-OH$ 、 $-SH$ 、 $-H$ 、 $C_{1-20}$ アルキル、 $-F$ 、 $-Cl$ 、 $-Br$ 、 $-I$ 、アルコキシ、アリール、アルカリール、およびアルケニル基から成る群より選択される；

$R^1$ 、 $R^2$ 、 $R^3$ 、 $R^4$ 、および $R^5$ は、 $-OH$ 、 $-SH$ 、およびそれらの組み合せから成る群より選択される少なくとも2つの隣接する基が $R^1$ 、 $R^2$ 、 $R^3$ 、 $R^4$ 、および $R^5$ が結合している環構造上に存在するように選択される；

$R^6$ 、 $R^7$ 、および $R^9$ から成る群より選択される基の1つは $-OH$ または $-SH$ であり、 $R^6$ 、 $R^7$ 、および $R^9$ から成る群より選択される基の残りは $-H$ 、 $C_{1-2}$ アルキル、 $-F$ 、 $-Cl$ 、 $-Br$ 、 $-I$ 、アルコキシ、アリール、アルカリール、およびアルケニル基から成る群より独立して選択される；

$R^8$ は $C_{1-20}$ アルキル、 $-H$ 、 $-F$ 、 $-Cl$ 、 $-Br$ 、 $-I$ 、アルコキシ、アリール、アルカリール、およびアルケニル基から成る群より選択される；

$R^{11}$ は $-OH$ および $-SH$ から成る群より選択される；

$R^{10}$ および $R^{12}$ はそれぞれ独立して $-OH$ 、 $-SH$ 、 $-H$ 、 $C_{1-20}$ アルキル、 $-F$ 、 $-Cl$ 、 $-Br$ 、 $-I$ 、アルコキシ、アリール、アルカリール、およびアルケニル基から成る群より選択され；ここで、 $R^{10}$ および $R^{12}$ のうち少なくとも1つは $-OH$ または $-SH$ である；

$R^{13}$ は $-H$ 、 $C_{1-20}$ アルキル、 $-OH$ 、 $-SH$ 、 $-F$ 、 $-Cl$ 、 $-Br$ 、 $-I$ 、アルコキシ、アリール、アルカリール、およびアルケニル基から成る群より選択される；

$R^{14}$ 、 $R^{15}$ 、および $R^{17}$ から成る群より選択される基の1つは $-OH$ または $-SH$ であり、 $R^{14}$ 、 $R^{15}$ 、および $R^{17}$ から成る群より選択される基の残りは $-H$ 、

$C_{1-20}$ アルキル、-F、-Cl、-Br、-I、アルコキシ、アリール、アルカリール、およびアルケニル基から成る群より独立して選択される；

$R^{16}$ は $C_{1-20}$ アルキル、-H、-F、-Cl、-Br、-I、アルコキシ、アリール、アルカリール、およびアルケニル基から成る群より選択される；

$R^{18}$ 、 $R^{19}$ 、 $R^{20}$ 、 $R^{21}$ および $R^{22}$ はそれぞれ独立して-OH、-SH、-H、 $C_{1-20}$ アルキル、-F、-Cl、-Br、-I、アルコキシ、アリール、アルカリール、およびアルケニル基から成る群より選択される；

$R^{18}$ 、 $R^{19}$ 、 $R^{20}$ 、 $R^{21}$ および $R^{22}$ は、-OH、-SH、およびそれらの組み合わせから成る群より選択される少なくとも2つの隣接する基が $R^{18}$ 、 $R^{19}$ 、 $R^{20}$ 、 $R^{21}$ 、および $R^{22}$ が結合している環構造上に存在するように選択される；

nは0以上の整数である；

のポリマ化合物。

2. nは0～10の整数である、請求項1記載の化合物。

3. エポキシ樹脂を含む第2の組成物における接着促進剤および硬化剤としての請求項1に記載の化合物の使用。

4. (a) エポキシ樹脂；

(b) 請求項1に記載の化合物；

(c) 触媒；

(d) 任意に吸湿性溶媒；

(e) 任意に成分(b)の硬化剤とは異なる硬化剤；

を含む硬化性組成物。

5. (a) 40°Cを超えるガラス転移温度を有する45～98.45重量パーセントの固体エポキシ樹脂；

(b) 0.3～10重量パーセントの請求項1に記載の化合物；

(c) 0.2～20重量パーセントの触媒；

(d) 成分(b)の硬化剤とは異なる1～30重量パーセントの固体硬化剤；

(e) 0.05～1.5重量パーセントの流動制御剤；

(f) 0～55重量パーセントのフィラー；

(g) 0～10重量パーセントの着色剤；

を含む硬化性粉末被覆組成物であって、ここで、前記重量パーセントは、(a)、および(b)、および(c)、および(d)、および(e)、および(f)、および(g)の総重量に基づく、硬化性粉末被覆組成物。

6. 請求項4または5に記載の組成物の硬化物で被覆された金属基材を含む物品。